

ME室

技士長 高室 昌司

ME室の歩み

ME室は平成2年の11月に一部門として独立しました。世間ではME室という独立した部署がある病院はまだ珍しく、非常に画期的なできごとでありました。その後間もなくして、2名ほど技士が増えましたが、まだ透析の業務を行う技士に過ぎませんでした。しかしその後は心臓外科OPENを機に、OP室での業務とICUでの業務が加わり、さらにカテ室での業務も、と現在のME業務の様相を呈してきた時期でもありました。当時は、開院してまだ間もないということもあり看護師さんの数も非常に少なく、ICUなどは3西病棟の看護師さんが兼務されておりました。(1名で)このような非常事態の中で「患者さんのために」少しでも看護師さん達のお役に立てれば・・・ということで院長先生から、「MEはICUで、患者さんの手でも握っとれ〜！」という御指示があり、看護師さんが他の患者さんを看ている間はMEが代役を勤めていたりしたものでした(笑)。その後も徐々に業務の幅を広げていき、平成3年頃(?)、皆様方のご理解を得て、“ME室独立”に相成りました。臨床工学技士という資格は当時としてはまだ歴史が浅かったということもあり、臨床工学技士を独立した一部門として認めている病院は少なく、そういった中で当院が他の施設より先駆けてMEとして独立させて頂いたことは非常に名誉なことでもあり、また喜ばしいものでもありました。その後も、内視鏡・高気圧酸素治療などの業務にも関わることができ、“general”なMEとして確立していくこととなりました。今では総勢23名、今年の9月に新病院(岡本)に移転し、更に業務も拡充し関連施設の葉山ハートセンター、湘南厚木病院、榛原総合病院への応援等、関連病院への研修など、幅広く活躍する場を与えられております。また、海外での活躍としてアフリカ、東南アジア、東ヨーロッパでの医療支援に参加し貴重な経験を

をさせていただきました。

今後も今まで培った経験、またこの置かれた環境を生かし、患者さんに最善の医療が提供できるように他の医療スタッフとも協力し合い頑張っていきたいと思っております。

2013年 ME室学会発表

- 1) 岩村庸平. CHDFにおける警報圧設定の重要性. 第29回日本医工学治療学会, 横浜.
- 2) 猪俣隼人. 積層型ダイアライザーのTMPによる血液充填量の変化の測定. 第29回日本医工学治療学会, 横浜.
- 3) 種山かよ子. JMS社製透析用コンソールGC-110N使用下における脱血不良と抗凝固薬シリンジへの血液逆流の関連. 第29回日本医工学治療学会, 横浜.
- 4) 満岡宏介. 当院の遠隔モニタリングの現状. 神奈川県臨床工学技士会～学術大会～.
- 5) 岩村庸平. JUN55Xにおける安全管理. 第24回日本急性血液浄化学会, 札幌.
- 6) 高室昌司. JCIが求める病院施設管理と安全性. 第42回日本医療福祉設備学会～シンポジウム～.